

日本固有種 「ニホンイシガメ」

～ 日本の河川に生息する亀は外来種だらけ？ ～

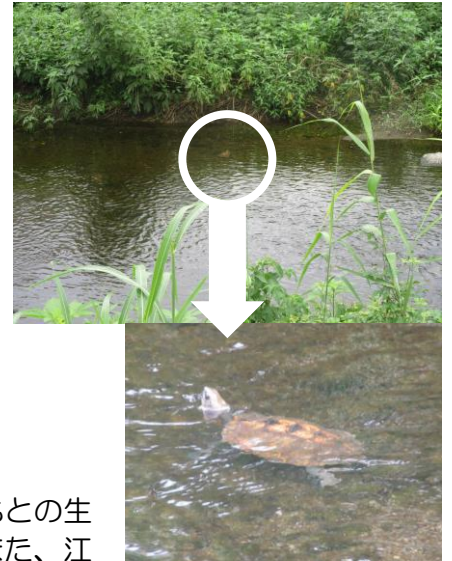
8月の朝、春先にタヌキとスッポンと出会った空堀側の同じ場所で、今度は「ニホンイシガメ」を見かけました。前に出会ったスッポンも外来種なのですが、明治時代に日本全国で盛んにおこなわれた養殖の池から逃げ出したため、生息域が広がってしまい、またその中には海外（大陸から）から輸入したものを含まれ、もともとの野生起源の个体かどうか、わからなくなっています。

川や池で出会うことの多い、ミドリガメやクサガメも外来種が野生化したものです。

- クサガメ：江戸時代中期以降に、中国や朝鮮半島から持ち込まれた。
(それ以前には、記録がない。)
- ミドリガメ（ミシシippアカミミガメ）：昭和にアメリカから観賞用に輸入された。

イシガメの正式和名は、ニホンイシガメといい日本の固有種です、もともとの生息域は、九州・四国から関東までだったそうです。しかし、イシガメもまた、江戸時代からペットとして飼われていて、野生起源かどうかわからなくなっています。

日本の河川には20種類ほどのカメが生息しているようですが、ほとんどが外来種です。スッポンは中国、韓国、ロシアなど幅広く分布しています。日本固有種は、リュウキュウヤマガメなど沖縄地方などにいるものと、ニホンイシガメだけです。



ニホンイシガメ (爬虫類綱カメ目イシガメ科イシガメ属ニホンイシガメ)



学名称は、japonica で「日本」という意味です。子亀の名称は「ゼニガメ」と呼ばれています。

- 特徴**
- 甲 羅：平たくて黄土色、お尻の部分がギザギザ
 - 大きさ：おす 15cm、めす 25cm)
 - 寿命：30～50 年
 - 産 卵：6・7月頃、数個～10個/回
土中に、2～3回/年、土中に産卵
 - 孵 化：60～70日で孵化
 - その他：顔が優し顔？

●「特定外来生物」「緊急対策外来種」の駆除

現在、日本国内では人により国内に持ち込まれて、自然に放たれ、野生化した外来種が、とても多くなってしまい、日本の自然界のバランスが崩れ、日本固有種が絶滅や減少の危機にあります。もちろんこれだけが理由ではなく、生息域の自然破壊や環境悪化なども重要な原因です。）

この動物たちは、生きるために日本の自然に適応して、子孫を残すという生き物としては、当たり前行動をしているだけで、悪いのは人間です。しかし日本の自然は守らなければならないので、これらの生き物を「外来生物法」という法律で「特定外来生物」に指定をしたり、農林水産省により「緊急対策外来種」に指定して、駆除されています。ペットは「その寿命が終わるまで、責任をもって飼う」そして「ペットにはいけない種類は飼わない」ということが大切です。

